

# 童話創作『春雄さんと蟻』

和歌山幼稚園 中村楠雄

主眼點 春雄さんは道遊びをすることが大變すきになつた。或日蟻の巣を見てゐて遂にねむりこみ、面白い夢や恐ろしい夢を見たが、其の間に蟻にかまれ、とう／＼病氣になつた。

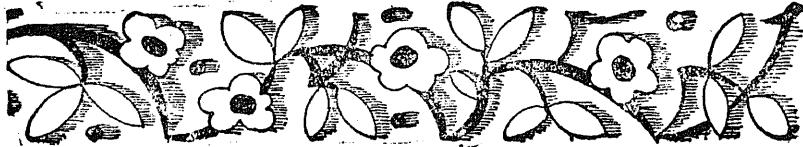
時間 十五分

其他 話者は教訓を餘り強く頭に盤かね様にしたい。

春雄さんも今年から幼稚園へ行つてゐます。毎日休まないで元氣よく行つてゐます。

春雄さんは始め、幼稚園へ行く道を知りませんでしたが、お母様に教へて頂いてから、よく分りました。それでもう今は毎日一人で行つたり、歸つたりして居ります。其の途中に公園がありますが、公園の中を通ると、春雄さん達の好きなことが澤山あります。テニスをしてゐる事もあります。ベースをやつてゐる事もあります。また運動會をしてゐる事もあります。其の他、お花も咲いてゐますし、熊さんや、お猿さんや、リスさんや色々な鳥さん達もゐます。

けれども始めの間は、おうちへ早く歸りたかつたから、何にも見たくありませんでした。



毎日——幼稚園へ行つてゐる間に道も一層よく分つてくるし、つれて歸るお友達も出來て來ました。

或日お友達と公園を通つて歸ると、どこかの學校の運動會がありました。するとお友達の鐵ちゃんが。

「春雄さん、運動會見て行かう」

と言つたので、春雄さんも見ました。するとカケツコや、お遊戯などがあつて、大變面白うござりました。

其のあくる日、また公園を通つて歸る時、お友達の源ちゃんが。

「春雄さん、今日はね、あの動物園見て行かない!!」

と言つたので、春雄さんも行きたくなりました。それで公園の動物園の所へ行きました。するとどうでせう!!熊さんの所へ、大勢の人が集つてゐるではありますんか。

「なんだらう?」

と思つて春雄さん達も走つて行きました。すると暑くなつて來たので、熊さんが大喜びでお水をあびてゐる所です。ドブンと水溜へ這入つたかと思ふと、またドツと飛び出て来ます。そしてブル——と體をふるはせると、お水が春雄さん達に、かゝる事もあります。何

べんかそんな事を繰り返して、喜んでゐます。春雄さん達はそれを長く見てゐましたが、それから鶴さんが長い喙で、流し口から落ちる泥鰌をうけるのを見たり、リスが大變お手上に落花生の皮をむいて、たべるのを見たり致しました。

そして歸らうと思つて、こちらへ來ますとバツタリと春雄ちゃんのお母様に出会ひました。すると

「春雄ちゃん、まあこんな所にゐたのですか。お母ちゃんが心配して、心配して今幼稚園へも行つてお尋ねして來ましたのよ。もうね、決して道遊びをしない様に致しませうね。お母ちゃんの可愛い春雄ちゃんが、どこかへつれて行かれたらいどうしませう。」

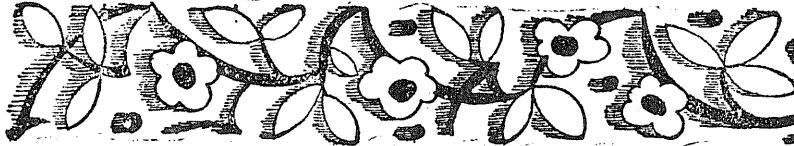
とおつしやいました。

あくる日幼稚園へ行きますと、幼稚園の先生も

「春雄ちゃんも、其のほかの方も、皆んな途中でお遊びをしないで、サッサとお歸へる様に致ませう。」

と、おつしやいました。

けれども公園を通ると、面白い事があるので、ちき遊び度くなります。それで春雄ちゃんは、先生やお母様のお言附をきかないで、やっぱり道遊びを致して居りました。そして



此頃ではお友達がなくても、一人でも道遊びをする様になりました。

或日春雄ちやは一人で、幼稚園から歸つて來ました。そしていつもの公園の中を通るとふと面白いものを見つけました。何でせう。それはね、蟻さんの行列でした。澤山の蟻さん達は筋になつて、向ふへへと行きます。それで春雄ちやは、

「どこまで行つてゐるのだらう?」

と思ひました。

それから春雄ちやは、

「ヨシツ、僕はついて行つてやらう」

と考へました。そして蟻さんの行列をつたつて、すんすん向ふへ行きました。

すると、とうへへおしまひに、土がもこくと高く盛り上つて小さなお山のやうになつてゐる所へ來ました。そして其のてつべんに、小さな穴が二つか三つあいてあります。其穴の中へ蟻さん達が、皆んな這入つて行きます。

「アア、ここは蟻さんの巢だなツ」

と思ひました。ちつと立つて見てみると、すんへへ中から出て來るのもあります。何だか儀の様なものをかついで這入つて行くのもあります。また大勢でミミズやトンボなどを、

エツサ～とひつぱつて來るのもあります。餘り面白いので、春雄ちゃんはとう～そこへ座り込みました。そしてまたちつと蟻さん達を見てゐました。するとね、蟻さんの穴からおかしなものが出て來ましたよ。オヤ～、何でせう、よく見ると洋服を着て、鐵砲をかついで、小さな～蟻の兵隊さんです。

そして春雄ちゃんを見ると、お手々を元氣よく擧げて、シツケイを致しました。それでは春雄ちゃんも、元氣よくシツケイをしました。すると今度は其の兵隊さんは

「春雄さん、王様のお使でお迎へに参りました。僕達のおうちに来て下さい。」

と申します。

「だつて僕はそんな所から、這入れないもの。」

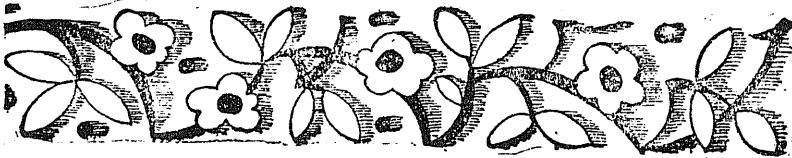
と春雄ちゃんは答へました。さうすると

「イエー、ソーラこれなら這入れませう」

と母しまします。

そしてお手々を三回、バチン、く、くと打ちました。すると其の蟻さんの穴は、スー、く、くと大きくなつて、とうと鐵の大きな御門になりました。そして

「サア、お這り下さい。」



と申します。それで其の御門の中へ、這入つて行きますと、もう澤山の蟻さん達は、ズラリとならんでお迎へに出てゐます。其の中を通つて、とうくお玄関につきました。そうすると今度は將校さんの様な蟻の兵隊さんが出て來て。

「サアお上り下さい。王様がおまちかねでございます。」

と申します。それで其の將校蟻さんの後へついて、お玄關を上つて、ずつと奥のお部屋に参りました。

其の時將校蟻さんは

「ここは王様のお部屋でございます」

と言ひながら、スツとお部屋の入口をあけました。さうすると其處は奇麗なく、そして大きなくお部屋がありました。

其のお部屋のすつと向ふの、一段と高い所に、ピカピカと光る冠をいたぢいて、奇麗なおべべをお召しになつた王様がお出でになります。其の王様の後には、長刀をもつたのや刀を持つたのや、大きな團扇のやうなものを持つたのや、色々のものを持つた、家來の蟻さんもすつと並んで居ります。又王様の右側にも左側にも、ズツと澤山の奇麗なおべべを着た蟻さん達も並んで居ります。そこで將校蟻さんは、王様に。

「王様、春雄ちゃんがお出でになりました」

と申上げました。すると王様はニッコリと、お笑ひになつて。

「をを春雄ちゃん、よく来て呉れましたね。サア／＼もつとこちらへいらつしやい」

とおつしやいました。それで春雄ちゃんも元氣よく、前へ進んで行つて、おじぎを致しました。すると王様は。

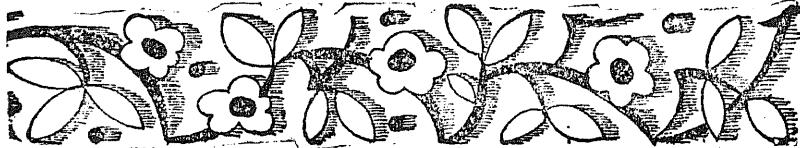
「サア、春雄ちゃんに何かお遊戯をして、見せてあげて下さい。」

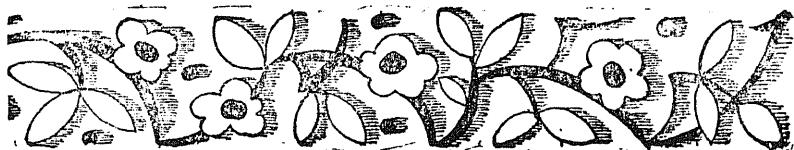
と申します。するとどこからか、きれいな／＼よい樂隊の音が聞え始めました。それと一緒に其の王様の後のも、右側のも、左側のも、皆んな一度にサアツと立ち上つて、奇麗なおべべの袖を、ひるがへしながら、よく調子を合せて踊り出しました。其の美事なこと、美事なこと、あまり奇麗でありましたから、春雄ちゃんは思はずお手をバチ／＼と打ちました。其のうちに其の踊りがすみますと、王様は今度は春雄ちゃんに向つて。

「春雄ちゃん、春雄ちゃんは幼稚園でお遊戯をならつてませう。今度はそれを見せてほしいね。」

とおつしやいました。元氣な春雄ちゃんですから

「ハイ」





とお返事をして、すぐに立ち上つて、大勢が見てゐる眞中の方へ進んでいきました。そして蟻さんのピアノに合して、上手に踊つて見せてあげました。さうすると王様はじめ、澤山の蟻さん達もすっかり感心して、皆んなバチーと手を打つて、春雄ちゃんをほめました。

それから王様は

「春雄ちゃんに御馳走をしてあげて下さい」

とおとおつしやいました。すると

「ハイ」

と云ふお聲が、どこかで聞えたと思ひますと、奇麗なおべべを着た方が、何かお膳の上にのせて、こうささげて(さゝげてあゆむまねをする)しづくと春雄さんの前に来ます。そして春雄さんの前へ、それを置いて、禮をしてあちらへ行きます。そんな方が後へへと来て、色々のものをならべました。春雄さんは

「どんな御馳走か知ら」

と思つて一寸見ますと、オヤ、一番始めのは、好きな好きなお饅頭、其のつぎはチヨコレート、それからリングにバナナ、カルビスもあればソーダ水もあります。お魚もあればおすしもあります。

「ヤアいろ／＼御馳走があるなあ」

と思ひました。其の時王様が

「サア春雄ちゃん、春雄ちゃんのお好きなものがあつたら、何でもおあがり下さい」と申されます。そこで春雄ちゃんは、どれからいたゞかふかと思ひましたが、先程からお遊戯をして、お水をのみたくなつてゐましたので、一番始めにカルビスを飲みました。

蟻さんのおうちのカルビスは、大變おいしうございました。それからおすしも、お魚も、チヨコレートも、バナナも、色々いたどきましたので、お腹がいっぱいになりました。其

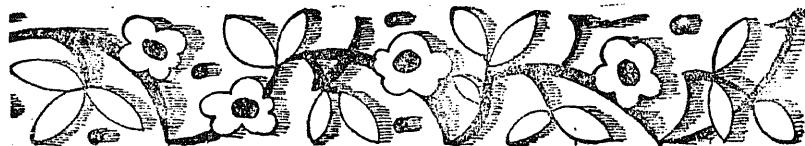
の時春雄ちゃんは、もう歸らうと思ひました。それで王様に

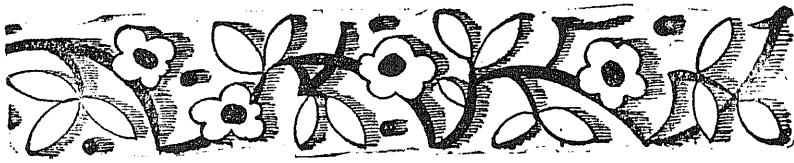
「もう僕歸りたくなりました」

と申上げました。そうすると王様は

「さうですか。それではまた來て下さいね。誰か春雄ちゃんにお土産をあげて下さい」と申されると、家来の方が風呂敷を持つて來て、春雄さんの前へひろげました。そしてそれへバナナやら、リンゴやら、お饅頭やら、まだ其のほかに、汽車や、自動車やサーべルや繪本などの、お玩具もどつきり包んで呉れました。

それから春雄ちゃんは、王様や其の他の皆さんの方に





「左様なら」

を言つて、今貰つたお土産を、ヤツコラサと持ち上げました。随分重かつたのですが、一人をかついで、前の御門の所へ來ました。するとこれはどうしたのでせう。いつの間にか御門はなくなり、元の小さな蟻さんの穴になります。サア春雄ちゃんは出る事は出来ません。急に悲しくなつて、ウワフと泣き出しました。泣いたらそこら一面真暗闇になつてしまひました。

其時春雄ちゃんの頭の上で

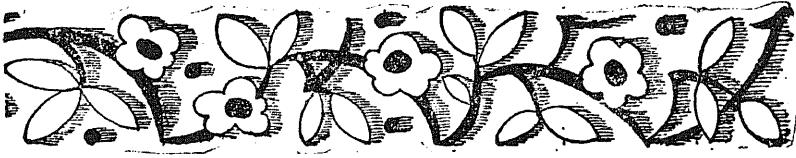
「春雄ちゃん、春雄ちゃん」（細く強い聲で）

と云ふお聲が聞えました。春雄ちゃんはふとお顔をあげると、眞白いおひげを、スウッと長くはやして、眞白いおべべの様なものを、お召しになつた方が、立つて居られます。あゝ、それは神様です。春雄ちゃんも思はずおじぎを致しました。

すると神様はまた

「春雄ちゃん、あなたは毎日道遊びばかりしてゐますが、あしたからは、さつさとお歸る様に致しませうね」

とおつしやいます。けれども春雄ちゃんは、まだ道で遊びたかったから、だまつてお返事



をしませんでした。

「春雄ちゃん、お返事がありませんね、サアはつきりと、もう道遊びを致しませんとおつしやい」

と仰せになります。それでも春雄ちゃんは、だまつてゐました。さうすると今度は神様は大變御怒りになられて

「よろしい」

と強くおつしやつたかと思ふと、其の白いお姿がスッと消へてしまひました。

神様のお姿が、なくなるのと一緒に、急に春雄ちゃんの體中が痛くなりました。春雄ちゃんは

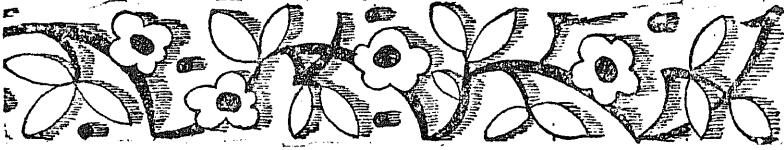
「イタツ、イタツ、イタイ、イタイ、イタイようツ、イタイようツ。」

と言つて、泣いて苦しがつてゐました。

其の時また

「春雄んさ、春雄さん」

と言つて頭をたく方があります。それでひよっこりお眼々をあけて見ると、それは春雄ちゃんのお母様です。そして



「春雄ちゃん、まあどうしたと云ふの。公園の中で、おねんねなんかしてゐて。……おねんねしてゐる間に、誰かにつれて行かれたらどうします。そして春雄ちゃんは泣いてゐたのね、夢でも見たの」

「痛いよう、痛いよう」  
とおつしやいました。それでも春雄ちゃんは、やつぱり體が痛くて仕方がありません。

と言つて泣きやみませんでした。それでお母さんは、どうしたのだらうと思つて、春雄ちゃんのお服を脱いで見ますと、これは／＼大變、春雄ちゃんのお服の中へ、蟻が澤山這入つて、體中へかみついてゐるではありませんか。お母さんはびっくりして

「まあ、これはこれは」

と言ひながら、春雄さんのお體や、お服をはらつて下さいました。それから春雄ちゃんはお迎へに来て下さつた、お母ちゃんと一つしよに、おうちへ歸りました。

おうちへ歸つてから、春雄ちゃんの體が、赤くはれて來て、大變な熱が出て來ました。サア大變、お醫者さんに来て頂くやら、氷で冷すやら、お騒ぎになりました。

そしてお醫者さんから、三日程幼稚園を休むやうにと、言はれました。それで春雄ちゃんは好きな、好きな、大好きな幼稚園をとう／＼お休み致しました。それから春雄ちゃんは、決して道遊びをせぬ、よい子供になりました。（大正一五、七、一二）